

# あゆみ

J C H O  
二本松病院

二本松市成田町1-553  
TEL.0243-23-1231  
FAX.0243-23-5086  
<http://nihonmatsu.jcho.go.jp>  
発行者:あゆみ編集委員会

## 地域包括支援センターオープン

二本松病院では、二本松市からの委託業務として  
「二本松市第1地域包括支援センター」を4月1日にオープン致しました。  
場所は、附属介護老人保健施設の玄関を歩いて左側にあります。

4月の市の広報誌でも紹介されておりますが、  
地域包括支援センターの役割は、高齢者の皆様が  
住み慣れた地域で、その人らしい生活が継続できるように、  
保健・医療・福祉サービスをはじめさまざまなサービスを必要に応じて、  
総合的・継続的に提供し、地域における包括的な支援を実現する役割を果たす総合機関です。

看護師・主任介護支援専門員・社会福祉士・  
介護福祉士の資格を持つ職員がお待ちしておりますので、  
介護のことから日常生活等についてお気軽にご相談下さい。

連絡先

TEL.0243-62-2223

お気軽にご相談ください!  
私たちが  
お待ちしております!

二本松市 二本松第1  
地域包括支援センター  
居宅介護支援センター

地域包括支援センターは  
お年寄りの  
身近な相談窓口です



ご存知  
ですか?

# 本当は身近な結核の話



「結核」は戦前の日本では「亡国病」とも呼ばれるほど蔓延していましたが、その後感染者は激減し、現代になり再び患者数が上昇した再興感染症です。

日本に限局して結核の新規登録者をみると、高齢者の中でも後期高齢者や超高齢者と呼ばれる年齢層の方が非常に多く、社会の「高齢化」の影響は見逃せません。東京オリンピック・パラリンピックが開かれる2020(平成32)年に向け、日本の結核患者を減らす計画が始まりました。「過去の病気」とわれがちな結核ですが、日本は人口10万人当たりの患者数が16.1人(平成25年)と高く、「中蔓延国」に分類されています。

3月24日は世界保健機関(WHO)が定めた世界結核デー。先進国の多くが10万人当たり10人以下の「低蔓延国」の中、国内でも患者を減らす取り組みと、新たな治療薬開発などの技術革新が進められています。日本の結核の患者数が減らない理由は、増加する高齢者に新

規登録者が多いからであり、現時点では若年層の結核罹患者はそう多くはありません。

しかし、これからの日本社会を考えると、若い方への結核予防に関する啓発も必要であるといえます。というのも、「国際化」に従い、今後結核が流行している地域から日本に働きに来られる方が、増加していくことが見込まれるからです。

また、日本人もどんどん海外へと出ていく時代になりました。増加する海外勤務や長期出張などが結核の感染に影響するのかどうか、詳細は現時点ではわかっていません。今後は、結核の高蔓延国に駐在される方が定期的に検査を受けられる体制を作るなど、時代に即した対応が必要になると考えます。

感染管理室 斎藤 宏子

**結核は人ごとでは  
ありません!!**

## 栄養管理室では、患者さんに行事食を提供しています。

今月は昭和の日・憲法記念日・子供の日のメニューを紹介いたします

昭和の日



五目ごはん・八宝菜・辛し和え  
冷奴・豆乳入りスウィートポテト

憲法  
記念日



赤飯・ヒレカツ・お浸し・酢の物  
カップゼリー・ホイップ添え

子供の日



五目ごはん・エビフライ・お浸し  
シソのみつけ・柏餅

## 院内学会発表を終えて

二本松病院院内学会が平成29年3月9、10日の2日間にわたり開催されました。そこでは、他職種の職員がそれぞれの専門知識や技法をグラフや写真を取り入れたパワーポイントで分かりやすく紹介し、様々な工夫や熱弁が多々見られました。質疑応答では、取り組みの詳細や今後の目標、研究に対する考察などがあり、内容の理解をより深める姿もありました。

私の意見ではありますが、医療従事者は患者様の治療、看護、機能向上を行うことは職務であり、また、患者様1人ひとりから多くのことを学ばせて頂いています。その学びを学会発表という形で恩返しすることがとても大切なことだと思います。

当院の職員は今後も、現状の業務遂行に満足することなく疑問や課題を明確にし、これらを解決するために院内学会という場を継続していくことが大切と考えます。院内学会で受賞された方は11月に全国のJCHO病院学会で発表することになっています。

理学療法士 主任 赤岡 智行





## お花見ドライブに行ってきました!



4月21日に、お花見を兼ねたドライブに行ってきました。今年も施設周辺の桜が、薄いピンクの花を満開に咲かせたのをご覧になり、利用者の皆さんは今回のドライブをとても楽しみにしていました。

当日は、霞ヶ城周辺をドライブしながら満開の桜を楽しんできました。

天気も良かったため霞ヶ城へ行くと、丁度桜をバックにして結婚式の写真撮影をされている方がおり、袴を着た男性と着物を着た女性を見て利用者様から笑顔が見られました。また、霞ヶ城を散策し、満開の桜を近くで見させていただきました。桜を見ながら「綺麗に咲いたねえ」「来て良かった」「い

い気分転換になった」などの話をしました。

その後、霞ヶ城の池の周りでお花見団子をみんなで食べました。なかには普段あまり食べない方が、団子を美味しそうに頬張っている姿や、あまり表情を表わさない利用者の方が桜の花を見て満足そうな笑顔で会話をしている姿を見ると大変微笑ましく、利用者の方、職員みんなの笑顔も桜に負けないくらい満開になったドライブでした。

今後も、利用者の皆さんに楽しんでいただけるような行事を企画したいと思います。

附属老健  
ボランティア委員会  
安田 忠浩

